

さまざまに姿を変えるモノから
生活の知恵や日本とのつながりを発見

MoNo 変身図鑑

第15回 サトウキビ

沖縄県や鹿児島県南西諸島では広く栽培されているサトウキビだが、それ以外の地域ではなじみが薄い。知っていることといえば黒砂糖の原料であることぐらい。今回はそんなサトウキビの秘密を探りたい。

飲み物

サトウキビのジュースやラム酒、焼酎などに。サトウキビ酢はポリフェノールを多く含み、高血圧予防、発ガン抑制への効果が期待されている



黒砂糖

黒砂糖はサトウキビの搾り汁をそのまま煮詰めた最もシンプルなサトウキビ製品。カルシウム、カリウムなどのミネラルを豊富に含んでいる



染料

サトウキビの葉と糖を煮出して染めたウージ染め。黄金色がかかったウグイス色の素朴な色合いが評判で、布や洋服、デニムなどへ用途は広がっている



私たちが消費している砂糖のうち3分の2以上をタイやキューバ、オーストラリアからの輸入に頼っているんだ



©世界文化フォト

空気中の二酸化炭素を大量に吸収しながら、1年余りで高さ2~4メートルに成長するサトウキビ。茎をかじると粗い繊維の中から甘い汁がじわり



世界の食を支える砂糖のもと
世界で生産されている砂糖のうち、サトウキビから作られる甘しや糖が占める割合は6割以上。サトウキビというと黒砂糖を連想するが、上白糖やグラニュー糖なども精製法が違っただけで原料はサトウキビだ。
サトウキビが栽培されているのは熱帯から亜熱帯にかけての地域。サトウキビの生産量世界一はブラジルで、次いでインド、中国が続く。先進国での砂糖消費量が減少する中、開発途上国では消費量が増加している。
原産地は一般的に南太平洋ニューギニア周辺とされ、1万年前にはすでに栽培されていたと考えられている。サトウキビから砂糖が作られるようになったのはかなり時代が下って、5世紀においてだった。

温暖化から地球を守る救世主?
サトウキビが優れているのは、捨てる部分がほとんどないことだ。以前は、砂糖や蜜になる搾り汁を取った後に大量に出るサトウキビの搾りかす(バガス)は家畜の飼料となるか廃棄されるかほとんどだった。しかしバガス再利用の研究が進んだ今では、バガス紙やバガスパルプの原料に用いられ、非木材パルプの2割近くを占めるまでになっている。

ほかに、合成木材や生分解性プラスチック、その複合利用、バイオマスエネルギー、自動車燃料用アルコールなど多分野で利用法が研究されている。サトウキビが針葉樹の5倍以上の光合成能力を持っていることも注目すべき点だ。地球温暖化防止、森林資源の保護など、地球が抱える問題解決に、多に貢献してくれるそう。なサトウキビ。さまざまな分野で有効利用の研究が進められている。

1年余りで高さ2~4メートルに生長する



保護など、地球が抱える問題解決に、多に貢献してくれるそう。なサトウキビ。さまざまな分野で有効利用の研究が進められている。

バガス紙

搾りかすのバガスを非木材紙、非木材パルプとして再利用。バガスからはほかにペニヤ板、生分解性プラスチックなども作られている



コスメ

せっけんやシャンプーなどの自然派化粧品に。黒砂糖の豊富なミネラル、ビタミンが肌や髪をやさしく洗う



加工食品

沖縄名物ちんすこうをはじめ、キャンデー、アイスクリームなど黒糖を使った商品は数え切れないほど。サトウキビの食物繊維に注目した天然だしなど、調味料にも使われている



サトウキビから生まれたエコロジーアート

サトウキビの紙や浜辺に落ちている貝、サンゴ、流木、木の葉など沖縄の自然にあるものを使ってアートを生み出す人がある。「絵コロジアーティスト」の住友JINさんだ。JINさんの手にかかれば、サトウキビの紙が時計や器、タペストリー、電気スタンド、そしてあのシーサーにも生まれ変わる。作品に使われている色も、藍、フクギ、赤土など天然の素材を利用。一つ一つ手作りの作品は、どこか温かく、見ていると心が和む。

サトウキビの搾りかすが紙に再生するまで3年はかかる。「時間がかかるけど、それが自然な流れ。忙しさに目の前のことしか見えなくなる人が多いが、自然と向き合うと忘れかけていた大切なものに気付くはず」(JINさん)。



協力：さとうきびArtギャラリー「ウージ畑」 沖縄県国頭郡恩納村名嘉真2288-456 TEL：098-967-7081 URL：http://www.earth-kid.co.jp